

## 会議録（概要）

会議名称	令和3年度 第1回愛西市行政改革推進委員会
開催日時	令和3年7月27日（火） 午前10時から午前11時43分まで
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	佐藤徳潤委員、後藤芳樹委員、竹島緋徹子委員、石原美代子委員
公開・非公開	公開
傍聴人の数	0人
審議事項等	●審議事項 (1) 第3次愛西市行政改革大綱（素案）について
会議資料	・資料番号1 第3次愛西市行政改革大綱（素案） ・資料番号2 進捗管理指標 ・資料番号3 令和3年度第3次愛西市行政改革大綱策定スケジュール
審議経過	別紙のとおり

### 愛西市行政改革推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会長	岩崎 恭典	
副会長	横井 三千雄	
	佐藤 徳潤	欠席
	弓削 恵	
	横井 幸雄	
	石原 一孝	
	加藤 正彦	
	後藤 芳樹	欠席
	黒田 意津美	
	竹島 緋徹子	欠席
	吉川 佳恵	
	石原 美代子	欠席
	三輪 恵子	
	安田 恵子	
	吉田 偉	

### 職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
副市長	鈴木 睦	
教育長	平尾 理	
総務部長	近藤 幸敏	
市民協働部長	渡辺 弘康	
保険福祉部長	小林 徹男	
健康子ども部長	清水 栄利子	
健康福祉部参事	松本 繁	
産業建設部長	山田 哲司	
産業建設部参事	竹内 嘉章	
上下水道部長	山田 英穂	
議会事務局長	近藤 ゆかり	
教育部長	三輪 進一郎	
消防長	伊藤 幸司	
総務課長	鷲尾 和彦	
人事課長	青木 万亀雄	
財政課長	人見 英樹	

### 事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	宮川 昌和	
企画政策部参事	伊藤 孝一	
企画政策部経営企画課長	堀田 毅	
企画政策部経営企画課課長補佐	渡邊 典夫	

企画政策部経営企画課主任	東山 祐佳	
企画政策部経営企画課主事	山口 遼	

## 審議経過

発言者	内容（概要）
会長	<p><b>1. あいさつ</b></p> <p>皆さん、ご無沙汰をしておりました。本当にコロナは人と人が会う機会を奪っていくというのを実感しております。</p> <p>皆様と会議でお会いすることも、去年は全くできなかったこともありますし、皆様方が地域でさまざまな活動をされる際、ほとんどが中止になったのではないかと思います。そのため、お年寄り、子どもたち同士の結びつきもなく、それぞれが孤立を深めているというのが現状ではないかと思います。</p> <p>その一方でネット社会が格段に進展をしました。例えばズームで会議をするなど、人と人とが触れ合わないまま会議が開催できるという仕組みが増えてきました。</p> <p>愛西市をはじめ、これからの行政の在り方がどうなっていくのか、見えない状況になっていることは確かです。だからこそ地域との結びつきを早く復活させることが何よりも重要だと思っています。コロナウイルスがワクチン接種でようやく少し落ち着きをみせるのであれば、ぜひ地域の動きを復活させることに取り組んでいければなと思っています。</p> <p>そのためにもこの行政改革推進委員会は、これからの時代にとって必要なものは何か、やや優先順位が下がっていくのは何なのか、ということを中心にきちんを見極めて、愛西市の次の4年に向けた総合計画を実現するための推進エンジンとして行政改革をしていくための新しい計画を作っていくというのが主眼であります。</p> <p>社会はおそらく今大きく変わっていくだろうと思います。その一方で先ほど申しましたデジタル化の話は住民の方にもだいぶ受け入れられるようになってきました。</p> <p>ファミコン世代が50歳後半になり、あと10年経つとシニアも生まれながらのコンピューター世代であります。また、在宅勤務が増えたことにより、お父さんたちが地域社会に向ける目が出てきているはずで、平日の昼間に地域をうろうろするというをお父さんたちは初めて経験したと思います。愛西市にずっと暮らしていくのであれば、自分は会社に行くだけではなく、この地域で何ができるのかということに思いを馳せるお父さんたちも確実に増えてきていると私は感じています。行政改革とは少し離れますが、そのお父さんたちに何をしてもらえるか、愛西市を構成している市民としては、重要なことではないかと思えます。そういった契機もプラスに考えて、今ウィズコロナの間にやれるべきことはやっていきたいなと思います。</p> <p>この行政改革推進委員会もようやく皆様と対面で議論ができるようになりました。この機会を捉えて、ぜひ次の世代に、愛西市がどうあるべきかということを考えていきたいと思っています。どうかよろしく願います。</p>

副市長	<p>時節柄、長時間はいけませんので、議事の進行をいつも以上にご協力賜りますようお願いいたします。</p> <p>皆様おはようございます。本日は大変お忙しい中、またコロナ禍の中を令和3年度第1回の行政改革推進委員会にお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃は市政発展のためにご理解ご協力を賜りまして重ねてお礼申し上げます。この推進委員会につきましては、昨年度新型コロナウイルス感染症拡大のため、すべて書面開催だったため、対面で行うのは本年が久しぶりとなりますのでよろしく願いいたします。</p> <p>コロナ禍の中で、行政が、社会情勢が、あるいは市民生活が大きく変化していることは明らかになってまいりました。本市では今年度第2次総合計画の中間見直しの年であります。総合計画、行政改革、財政計画が連動することが必要であり、その計画を踏まえて次に進みたいと考えております。</p> <p>さて、本日もご審議いただく内容については、第3次行政改革大綱（素案）についてです。第2次行政改革大綱では、第2次総合計画を推進する行財政体制の確立を目標に掲げ市民の皆様から信頼される安定した行財政運営を目指してきたところでございます。このような中、人、物、金など市が持つ経営資源を最大限に活用して、効果的効率的な行政サービスを提供する必要がございます。</p> <p>本市がいつまでも魅力あるまちであり続けるためには、第3次行政改革大綱の策定は必要不可欠でございます。</p> <p>本日は限られた時間ではございますが、どうか忌憚のないご意見、ご審議を賜りますようよろしくお願いいたします。</p>
議長	<p><b>2. 議事録署名委員の指名</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議事録署名委員：吉川 佳恵</li> </ul> <p>今回お集まりいただきましたのは第3次行政改革大綱について、皆様に忌憚のないご意見をいただくという趣旨です。</p> <p>そして年度内に第2回、第3回の行政改革推進委員会を開催し、来年度以降の計画を今年度内に固めていこうというものです。今日、何かの形で物事を決めるということではありません。では早速説明させていただきます。</p>
事務局	<p><b>3. 審議事項</b></p> <p><b>(1) 第3次愛西市行政改革大綱（素案）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料番号1、2により説明</li> </ul>
議長	<p>あと2回ほど行政改革推進委員会があります。また12月には、パブ</p>

	<p>リックコメントで市民の皆様からご意見をいただき、それを元に最終案を第3回行政改革推進委員会で固めていくというスケジュールです。そちらを認識していただき、ご意見を伺いたいと思います。いかがでしょうか。</p>
議長	<p>では、6ページに総人口の推移の話があり、令和2年の国勢調査ベースでは愛西市としてはどのような感じだったのですか。</p>
事務局	<p>まだ速報値として国勢調査の結果は出てないのですが、6年前の平成27年の調査時の数値よりは低くなっていると思います。</p>
議長	<p>7ページの人口ビジョンにだいたい推移した形ですか。</p>
事務局	<p>はい。そう考えられます。</p>
議長	<p>人口が全国で減少している中、残念ながら、愛西市も例外ではないということです。さらにお年寄りの比率は着実に伸びているという状況です。だからこそ、認知症サポーターの話が、やや唐突かなと思いましたが、すごく重要な部分であると思います。人材を団体組織化して、活用して高齢者に優しい地域づくりを図るというのを敢えて入れているのだなと思いました。</p> <p>人口減少と高齢化を踏まえた形での行革方針ということになったのかなと思います。</p> <p>もう1点ですが、資料2の進捗管理です。</p> <p>令和2年度、令和3年度の目標がありますが、ご存じのとおり令和2年度はコロナの緊急事態宣言が出て、多くの事業がストップしてしまいました。そのあとはコロナの対応と、ワクチン接種がはじまりました。今年は、ワクチン接種に関して、おそらく市の仕事はいろんな形で増えているのだと考えます。例えば、ワーク・ライフ・バランスとして30番「月45時間以上の時間外勤務職員数」では、平成28年度の139人から令和2年度は207人と増えてしまっています。これは令和3年になると、もっと増えるのか、少し落ち着くのか。要するに、突発的な不都合が生じているので、なかなかワーク・ライフ・バランスの推進という数値目標が、達成状況にはおそらく程遠くなっていくのではないかと思います。そのあたりはどうお考えですか。やはり、かなり働き方としてはしんどい話となっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>令和2年度につきましては、ご存じのとおりコロナ対応の施策を行ってまいりました。例えば、1人あたり10万円の定額給付金の対応では、速やかにということでも5月から8月までの急遽短い期間に市民62,000人ほどに給付する事業、学校給食の無償化、子育ての施策など、さ</p>

議長	<p>まざまな事業がコロナの影響で増えました。それはあくまでコロナの影響で市民の方が困っていることに対して取り組んでいく市としての施策ですので、仕方がないのかなと思います。令和3年度につきましても、引き続きコロナ対策事業というのはございますので、ここ数年について、影響は残っていくのではないかと考えます。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスの推進という項目からすると、やや外れてしまいますが、市民生活にとっては市役所の仕事は当然やらなければならない仕事をやっている、その意味で言うと定員管理の計画そのものも少し考えた方がいいのかなと思います。いろいろな自治体で行政行革を勉強していると職員数は当然合併の時は膨らんでいて、それを徐々に減らしてきていますが、本当にこのまま減らすだけでいいのでしょうか。</p> <p>例えば、緊急事態だから色々と仕事は増えていますが、それ以外にも今後、お年寄りの数が増えてきて、冒頭申し上げましたように、孤立するお年寄りが増えていくという状況になった時に、本当にそれを支えていけるような市の職員が必要になるのではないのでしょうか。そういう意味では、職員の定員を一律に削っていくというのは必ずしもないのではないかと考えます。そのあたり、少し融通がきくような行革大綱でありたいなという気はします。そのあたりは人事課としていかがでしょうか。</p>
事務局	<p>令和3年2月に定員管理計画の満了を迎えたことによりまして、令和3年から令和7年までの計画を策定させていただいているという状況でございます。会長から話がありましたように、社会情勢の変化によっては、この定員管理計画を再度、改定をしなければならないと思います。各職員の業務量ならびにヒアリング等を実施しながら行政があるべき姿、定員のあるべき状況を見据えながら引き続き検討していきたいと考えております。</p>
議長	<p>正規の職員だけではなく、非正規の職員の皆さんのことも考えながら作っていかなければならないと思います。かなりの数の会計年度任用職員の方が愛西市で働いてらっしゃるのも事実です。そういった点も考えていかなければならないと思います。</p>
委員	<p>人口減少を招いていることに対しての取組についてお聞きしたいです。今の分布、統計や計算によってこのように減っていくのだろうかというのは分かります。それに対する愛西市の取組があるのでしょうか。聞くところによると、利便がいいところでも家を建てようと思っても市街化調整区域でなかなか家が建ちません。だから、人口が増えないのではないのでしょうか。</p> <p>行政として、ただ今の人口分布で、年寄りは時間が経てば死んでいくし、</p>

	<p>子どもは生まれてこない。だから減る一方だということではなくて、他から人をひっぱってくるような取組はないのでしょうか。人口が減るから学校を統合するというのではなくて、例えば学校を維持できるように増やすなど、行政がどういう取組をしているのか見えません。ここで議論する場ではないかもしれませんが、そういうことは一般的に感じています。</p>
議長	<p>人口増加策は、行政改革ではなかなか反映しにくく、むしろ総合計画の話だろうと思いますが、確かに納税者の数を増やしたいというところでは、そのあたりは愛西市としてどのように考えているのでしょうか。特に、いろいろな場所で問題になりますが、市街化調整区域の線引きの問題があります。ただ、それは市がどうこうできるものではないということもありますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>愛西市としましては、行政改革とは違う愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略で定めています。働いてみたい、行ってみたい、子育てしてみたい、住み続けてみたいという視点から現段階では各種事業に取り組んでいる状況です。</p>
議長	<p>そうですね。地方創生総合戦略の事業展開の中で人口増加を図ってきたいというのが、方針です。 他にはどうでしょうか。</p>
委員	<p>私は随分高齢で、老人クラブを活用しています。老人クラブのだいたいが高齢で平均年齢は80歳です。老人クラブの会長が意欲的でいろいろな講座に参加させてもらっています。老人クラブには多少元気な人が出てきてはいますが、老人クラブの方を受講対象とするよりは、教室などのグループに少し時間を取ってもらい、講座を勧めてもらった方が役に立つのではないかと思います。各教室の年齢層を存じ上げませんが、話を聞きますと会社を辞めた人たちが参加しているということで、老人クラブよりは若いのではないかと思います。そういう人たちに認知症サポーター養成講座を受けてもらって周囲に目を光らせてもらってれば、行方不明になった方の捜索にも役に立つのではないかと思います。</p>
議長	<p>重要なお指摘です。老人クラブの枠にとどまらず、リタイアされている方はたくさんいらっしゃるわけですから、そのリタイアされている方に社会参加をしてもらう。また、そういう仕組みづくりというものが必要ではないかというご指摘だと思います。その通りだと思いますが、認知症サポーター養成講座の話に引き付けて、団体組織化は今うまくいっているのでしょうか。</p>

事務局	<p>今ご指摘のありました認知症サポーター養成講座の件について、老人クラブの方が中心となって受講している実態を把握しておりませんでした。他の団体の活用というのは、ご意見をお聞きしまして今後、進めていきたいと考えています。</p>
議長	<p>ただ、地域活動に参加するリタイアされた方、お母さん方の数が激減しています。それは、各企業の担い手不足があり、企業が元気な方々を非正規で雇用したがって、子育てが済んで、働いてみようかというお母さんを企業が中心に、働き手として雇う形になっています。そのため、地域で働いてみよう、何かやってみようという人を企業と取り合っているという状況です。そんな状況の中で、できるだけ地域活動を活発にしていく、そのためには何が必要なのか、総合計画にもありましたが、そういう意味ですと生きがい対策だけではなくて、少し地域活動でお金が稼げるような仕組みが必要になってくるのではないかと思います。認知症サポーター養成講座というものが、老人クラブにとどまらずにもう少し若い世代も参加し、具体的に活動する。認知症のサポートすることで、大した額ではないけれど収入を得られるような仕組みが必要になってくるのではないかと思います。</p>
委員	<p>認知症サポーターについてですが、私は名古屋市内で訪問看護ステーションに勤めています。名古屋市内でも高齢化が進んでいて、一人暮らしの高齢者がたくさんいらっしゃいます。コロナという時代もあって病院で面会が全くできず、ご家族が臨終の場面に同席できない状態です。私はもともと看取りがやりたい看護師だったので、看取りを目的とした訪問を多く引き受けており、がんの末期、老衰で近い方の所へ看護に行くのですが、この地域はあまり根付いていないなと思います。</p> <p>認知症サポーター養成講座を受講しましたが、養成講座を開催できる人を増やす方向へもっていけるといいかなと思います。養成者を養成するための講座があるので、愛西市で開催するといいと思います。名古屋市へ行かないと開催されていないので、愛西市内で開催できると意欲のある若い方がいるかもしれないし、認知症に詳しい方が病院や介護施設で講座が開ければ、認知症サポーターの輪が広がるのではないかと考えます。訪問介護ステーションや訪問看護ステーションを愛西市内で開いてもらえる人を探すことや、意欲がある人を愛西市内に呼ぶことができると愛西市内の高齢者へのサポートもしやすくなると思います。</p>
議長	<p>というご意見ですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>養成者を養成するというご意見だと思います。そのような形も必要だと思います。</p> <p>愛西市として7月1日から認知症の方を見守るということでシール</p>

	<p>を配布しております。問合せ等があるようで関心が高いと感じておりますが、それは、認知症のご家族だろうと思います。まだ、他の方はどうかという部分が評価されておりませんので、そのあたりについて認知症を抱える方ばかりではなく、周りの方ももっと関心をもてるような取組を進めていきたいと考えております。養成者を養成するというのもひとつだと思いますのでそのように進めていけたらいいなと思っております。</p>
議長	<p>他にはいかがでしょうか。認知症サポーターの話に限らず、赤い部分が色々なところに入っておりますので、特に10本の柱の部分を中心に色々のご意見をいただければと思いますが、どうでしょうか。</p>
委員	<p>私は民生委員の会長をしている中で様々な高齢者世帯の調査を行っています。国の方針で施設に入っていない、また元気な高齢者を、第2層協議体の中で、地域の中でみるという方向に進んでいます。認知症の方を含め、老人クラブにも入らずに地域で関わりのない方もいますので、地域でサロンを開くなど、施設に入らないように、認知症にならないように取組を行っています。現在、4地区で第2層協議体があります。各地区で地域に密接している民生委員が主体となって第2層協議体の協議会をやっております。だいぶ広まってまいりまして、各地区で専門的な体制を整えて、進んでおります。行政に頼るのではなく、地域は地域で見守っていくというのがこれからは大切ではないかと考えております。</p>
議長	<p>第2層協議体というのは、愛西市の場合ですと28ページにあるコミュニティの考えも含むということですね。</p> <p>2025年には12件のコミュニティを設置して、そこで総合支援事業を含めて、訪問介護ステーションなど、様々なサービスと支援を、住民も含めてやっていけるような、そういうものとしてコミュニティにも期待していきたいという位置づけでよいのでしょうか。</p> <p>コミュニティの設置数10件から12件と記載がありますが、愛西市の広がりがどういうイメージか、コミュニティに何を期待するのか。特に、見守りや生活支援など、第2層の方々への働きとしてどんな期待がありますか。</p>
事務局	<p>現在、コミュニティは10地区あります。コミュニティのない旧八開地区でできれば1件、佐屋の北部で1件設置したいと考えております。</p> <p>コミュニティに必要なもの、私たちが求めていることは地域の仕組みづくりを今後は市民の方に考えていただきたいです。今までは、行政が筆頭だったものを地域主導でやってまいりたいと考えております。</p> <p>33ページの12番に「モデル地区を設定し」とありますが、地域の</p>

議長	<p>仕組みづくりを開始したというところです。佐織地区で令和2年12月よりコミュニティの協力を得まして地域づくりを考えています。また、内容を他のコミュニティに広報、ホームページ等で紹介をし、皆さんで地域づくりを進めていただきたいと思いますと考えております。</p>
委員	<p>33ページの12番、28ページの話にあることが第3次行政改革大綱の個別取組の中で具体的に動いていく、それが行政と市民の関係の関係を大きく見直す契機にもなっていくのだろうということですね。</p> <p>数年前に開催した会議で、どうしたら子どもが増えるかという議論を行いました。若い夫婦が愛西市へ移住してこない限りはだめだと言う話です。</p> <p>ヤクルト配達員の方に聞いたのですが、愛西市は津島市よりも小学生の医療費が安いようです。高額所得者、低額所得者により異なるようですが、医療費が安いのであれば、愛西市への移住を考える、また出産費用の補助を出すことなど、いろいろ考えると人を増やす方法は何かとあると思います。例えば、空き家対策でも、賃貸にすれば、それなりに若い人も増えるのではないかと考えます。また、男性の育児休業、非常に良いことだと思います。いろいろな部署に絡んでくる話になりますが、いろいろ検討し、いかに子どもを増やそうか、生まれるまでの対策を愛西市として考え、愛西市に住みやすいまちづくりをと考えます。</p>
議長	<p>住みやすい愛西市を作ると言うのが、総合計画にもその文言があるわけですから、そちらを進めるために行政改革で何ができるのか、個別計画の中で考えていかなければならないと思います。</p>
委員	<p>総合計画に影響する話だと思いますが、愛西市全域で人口が減ってきている計画ですが、愛西市の中にも地域があります。佐屋や佐織は何かと恵まれていると思いますが、市街化から離れた八開や立田については大きな商業施設もなく、工場も少ない。施設が少ないということは、やはり住むにも負担が増えます。すると人口が減ります。過疎地域にも同じような工業施設、商業施設が必要です。商業施設は地元雇用が大きいと思います。また、過疎地は土地が安い、そういうところに魅力をもたせるような計画にすれば土地の安いところへ皆さんが移住してくる。例えば佐織・佐屋へ行けば土地が高い。税金が入る一戸建てを増やすため、過疎地域に施設が増やせるような対策を入れればいいなと思います。</p>
議長	<p>愛西市としての大きな課題だと思います。</p>
委員	<p>地域で環境保全の役員をやっており、子どもを楽しませるために蚕の養殖や鑑賞会、コスモスの種まき、鑑賞会を行っていますが、一緒にや</p>

議長	<p>ってもらえる子どもが少ないです。こちらから強制的に参加してもらうことが多いです。</p> <p>子どもを愛西市全体から呼べるような仕組みもほしいですね。</p>
委員	<p>やはり、子どもの数が少ないのが人口的な部分で1番の問題だと思います。私も子どもを育てていて、1番感じるのは医療費がかかることです。また教育費がかかります。やはり、1人の子どもを育てるのに1千万円かかると言われていますが、子どもが3人、4人となってくると教育費が一番大変です。個人的なことだと言ってしまえばおしまいです。市でも補助金などを出していただけたらいいなと思います。</p> <p>また、資料2の下段に企業誘致課があると思いますが、商業施設を誘致していただきたいと思います。</p> <p>佐織地区で工業団地ができてすごいものができたなと思いますが、主婦の立場からすれば商業施設があった方がありがたいです。</p> <p>そしてマイナンバーカードについて、どのように市として活用しているのでしょうか。住民票を取る際に、マイナンバーを書けば住所と名前の記載は不要ではないかと思うのですが、名前や住所も全部書かされます。そのあたりがきちっと確立していないのかと思います。これからどのように活用していくのか疑問に思いました。</p>
議長	<p>マイナンバーカード利用促進と書いてあって、取得率だけが進捗管理指標となっています。どう便利になるのかってことを示していただかないとマイナンバーカード取得率もあがっていかないのではないかと思います。そのあたりはいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>マイナンバーカードにつきましては、国も次々と施策を考えているとは思いますが、市として先ほどおっしゃっていたマイナンバーカードがあっても、何かの申請で住所や名前を書かなければならないというものを、システムでできないか、今検討しています。何とか、少しでも市民の方々への窓口サービス向上に向けて検討しております。マイナンバーカードを利用した申請手続きに少しでもなればと考えております。</p>
議長	<p>愛西市として押印はなくしましたか。</p>
事務局	<p>公印使用について昨年度見直しをしております。省略しているものもございます。</p>
議長	<p>びっくりするような書類まで印鑑不要といわれます。</p> <p>国がきちんと動いてくれないと、印鑑不要化は進まないです。マイナンバーも同じです。それがDX、デジタル化を進めていく際に、具体的に</p>

委員	<p>なっていくだろうとよく言われている部分です。期待したいところです。</p> <p>自分の身に直面して改めて思うのは、田や畑が我が家は多くありますが、両親が高齢になり、膨大な農地を今後どうしていくかを考えると不安で途方に暮れてしまいます。</p> <p>相談窓口があるとは思いますが、どこに相談したらいいのか、もう少し身近に感じられる制度を作っていただくといいなと思います。</p> <p>また、障害者施設等について、検査等が整ってきており、障害を発見しやすくなったため、発達障害の子どもの割合がすごく多くなってきています。その子たちが中学校や高校を卒業した後、働ける場所や支えるシステムとして、愛西市がどれくらい整っているかと考えると、もう少し充実してほしいなと思います。</p> <p>愛西市内で収まらず、市外へ行かなければならないことや、精神障害や知的障害ですと、なかなか市内で問題解決することができないと思うので、溝がないように、繋がっていけるように分かり易くしてもらえるといいなと思います。</p>
議長	<p>農地もこれからどう保っていったらいいのだろうか、あるいは障害のある子をこれからどういう風に支援してもらえるのだろうかという、相談窓口というのが、明確になっている必要があるのではないかということです。農地の問題は大きい問題です。項目の中では、読み取れそうな部分もありますが、市民の立場からいけば窓口を明確化するという項目があってもいいのではないかとということです。今後の参考に、個別取組としていただく際に少し反映ができればいいなということです。</p>
委員	<p>少子化について、資料1の33ページ、12番の大学、企業等の連携の推進がありますが、今、愛西市と、清林館高校や愛西工科高等学校が連携していると思います。私は八開地区に住んでいますが、納涼祭りや体育大会があるので、例えばそこで高校生を巻き込んでアナウンスを放送部の子が進めていくなど、高校生が地域と一緒に盛り上げてくれるといいなと思います。地域を盛り上げるのに、若者を巻き込んで盛り上げれば、若夫婦もいいなと思い愛西市に移住してくれて、愛西市が盛り上がっていくかなと思いました。</p>
議長	<p>高校との連携というのは、愛西市としてももう少し全面に出した方がよいのかもしれないですね。</p> <p>高校のカリキュラムが変わりまして、清林館高校は、「探求」という時間ができ、地域の課題解決を担う人材を育成するというテーマになっています。小学校、中学校の総合的な学習の中でインターンシップなどがあり、地域との関係を作っていく、高校でその課題を具体的に解決す</p>

委員	<p>る人材を養成していくという、3ステップで人材を育成しようとしているので、地域の皆さんが関わっていくという契機は、できつつあります。それが、愛西市から若い人が出ていくことを防ぐ話になるし、愛西市で家庭をもつことによって、子どもの教育が回っていくぞという大きな機会になるだろうと思っています。行政改革を真正面から捉える話ではないですが、33ページでご指摘があったように個別取組として具体的に考えていただければと思います。</p> <p>コミュニティセンターも設置が進んでいますが、コミュニティの運営上の課題があります。役員さんの思いによって進め方、力の入り方が千差万別です。運営の場面で特に会計を担う役員さんについては、受け手がいないため毎年交代でやっているところや、コミュニティを絶やそうかという地区もあると聞いております。会計の部分も、助言や指導があれば、会計担当も多くの人が携わってもらえるのかなと思います。自分が住んでいる所もそういう問題が顕著に出ています。</p> <p>また、人口減について、当然この地域は、勝手に家ができるわけではありません。一つが、町の中でセットバックがあるかと思っています。例えば、鈴鹿市だとセットバックした部分は市が土地を買う制度があると聞いています。セットバックについて、コミュニティ崩壊にならないように必要で重要な話ではないかと考えます。30年前に建てた所はセットバックされておらず、一方で最近建てた所についてはセットバックされているということがあります。道路の拡幅について計画されており、すぐ直るものではないと思いますが、そういった点についても今後良い話があるといいなと思います。</p>
議長	<p>セットバックの話はなかなかすぐにどうなる話ではないと思います。</p> <p>地域団体の会計の話はどこでも聞きます。いろいろなことに取り組む中で市民の皆様にもやってもらおうと思うと、市が色々な形で助成をします。すると、市からのお金、地域で集めたお金、それらをミックスして何か事業をやった時に、その事業の会計について、市に精算報告をする部分と団体の中で報告する部分とを分けることが必要で、とんでもない煩瑣<sup>ほんさ</sup>な会計処理をやっているのが、至るところで問題となっています。すごい負担となっているということです。それを解決するために考えている自治体もあります。一つは補助金ではなく交付金にするというやり方もありますし、32ページに市民活動団体への活動支援の項目がありますが、そういう中で会計を担当していく人への講座を特別に開催するなどの支援をしている市もあります。市民協働の仕組みづくりの中に会計をちゃんとやるという仕組みです。それから、地域には、会社で会計の事務処理をやっていたというOBの方も結構いますね。そういう方々が自分の業としてやれるような仕組みも地域人材の発掘という部分で</p>

	<p>必要になるのかなと思います。会計の仕事というのは、地域の活動を市民の皆様に行っていただければやっていただくほど煩瑣<small>はんさ</small>になっていきます。それを市としてどう支えるかというのは、これはまさに市民活動団体への活動支援としてすごく重要であると思いますので、今の発言については市の方でも検討していただきたいなと思います。</p> <p>一回来て皆様からご意見をいただいたところでございますが、これだけは言っておきたいということはございますでしょうか。</p> <p>(無し)</p> <p>ご意見をいただいたことをベースに固めていくというのが、今日のキックオフであります。</p> <p>資料3について再度説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>資料3について説明</p>
議長	<p>第2回、第3回と対面でできることを祈っています。</p> <p>本日の審議事項は終了とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p>